

学習指導要領		都立翔陽高校 学カスタンダード
<p>(1) 私たちの時代と歴史</p>	<p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p> <p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p>	<p>近現代の歴史的事象と現在との関連を考察する上で、諸資料を活用することの大切さや、そのために必要な技能や態度について理解するとともに、様々な視点から様々な歴史が描けることを理解する。</p>
<p>(2) 近代の日本と世界</p>	<p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p>	<p>[近代の萌芽]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米列強の進出によって、アジアの国際情勢がどのように変容したか説明できる。 ・欧米列強の接近という状況の中で幕府や諸藩が試みた改革と、その考え方について説明できる。 <p>[開国から幕府の滅亡]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国により、幕政の在り方が変化し、朝廷権威が高まったことと日本が国際社会の枠組みに組み込まれたことを理解する。 ・不平等な条約締結までの経過と、国内の社会・経済に与えた影響を説明できる。 ・公武合体派が政局の主導権を握っていく過程と倒幕運動の展開について理解する。 <p>[明治初期の諸改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代国家の成立に向け、政府が中央集権化を図ったことを、諸改革の内容を踏まえて説明できる。 ・文明開化が政府主導の近代化政策であり、欧米諸国と対等の地位へ引き上げようとするものであったことを理解する。 <p>[明治初期の外交]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の外交方針が、アジアでの国際的地位を確立することと結び付いていたことを説明できる。 ・前近代の東アジアの国際関係と比較して、領土画定

学習指導要領	都立翔陽高校 学カスタンダード
<p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に注目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p>	<p>の意義について説明できる。</p> <p>[自由民権運動の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民権派の主張や活動の特色と、それに対する政府の姿勢について理解する。 ・自由民権運動の展開について、松方財政の影響や担い手の変化、具体的な事件などをあげて説明できる。 <p>[立憲体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法に基づく政治体制の特色について説明できる。 ・民法典論争と新民法の特色を踏まえ、家族制度、相続制度などの特色について理解する。 <p>[条約改正]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条約改正交渉の成否と国内の法整備との関係、国際関係の変化との関連について説明できる。 <p>[日清・日露戦争と国際関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮での内政改革の動向や、日本政府の方針の考え方を踏まえ、日清戦争開戦の経緯について説明できる。 ・賠償金を原資に金本位制の確立や軍備拡張が行われたことを理解する。 ・三国干渉の国際的経緯を理解し、国民の対露感情が悪化した原因を考察する。 ・日露戦争について、規模、経過、国内の世論、国際的な動向などを日清戦争と比較し、理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争中の国民生活を踏まえ、日比谷焼き討ち事件の背景を考察する。 ・韓国併合後の朝鮮と日本社会の変化について理解する。 <p>[政党政治の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次護憲運動、米騒動などを踏まえ政党政治が進展したことを説明できる。 ・原敬内閣のもとで行われた選挙制度改革について理解するとともに、経済面で展開された積極政策が行き詰る経緯を理解する。 ・物価の高騰や戦後恐慌といった経済情勢との関連を踏まえ社会運動や労働運動が活発になった理由を説明できる。

学習指導要領	都立翔陽高校 学カスタンダード
<p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 (ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二大政党制と、「憲政の常道」と呼ばれた政党政治の特色を考察する。 ・ 普通選挙法の成立とともに、治安維持法が成立したことを、無産階級の政治進出やソ連の成立などと関連させて説明できる。 <p>[産業革命の進展と資本主義の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本で産業革命が発展した経緯と、その後の社会的影響について説明できる。 <p>[国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市における労働問題の深刻化と、社会主義運動の進展について、その関係を説明できる。 ・ 「大正デモクラシー」という風潮の中で様々な思想が浸透する背景として、経済の発展や思想の動向、教育の普及があったことを説明できる。 <p>[第一次世界大戦前後の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦において、日本が大陸への勢力の拡張を狙った理由を、国内の経済発展などから考察する。また、このことアメリカをはじめとする欧米諸国の日本に対する警戒心が強まったことを具体的に理解する。 ・ ヴェルサイユ体制下における五・四運動と三・一独立運動について、その後のワシントン体制下の日本の協調外交の展開を関連付けて理解する。 ・ 大戦景気により日本の独占資本主義が確立し、財閥による金融・産業支配が確立した経緯について説明できる。 <p>[戦間期の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、世界恐慌、昭和恐慌等の一連の恐慌への対策として、日本は円ブロックを形成すべく大陸進出を強めたことを考察する。 ・ 世界恐慌後の不況を脱するために、主要国で採用された代表的な政策について説明できる。 ・ 国家主義思想や軍部が台頭した理由と、政党政治が支持を失い、「憲政の常道」が崩れたことを関連付けて説明できる。 <p>[第二次世界大戦前後の国内外の動向]</p>

	学習指導要領	都立翔陽高校 学カスタンダード
<p>(3) 現代の日本と世界</p>	<p>ウ 近代の追究</p> <p>近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。</p> <p>第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会</p> <p>占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本がドイツやイタリアと三国軍事同盟を締結した理由や、アメリカ、イギリスとの対立を深めていった原因について、当時の国際情勢を踏まえて説明できる。 <p>近代日本がどのように形成され展開してきたかを、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などの中から主題を設定し、考察した結果をまとめ、他の生徒と意見交換や討論を行い、追求の成果を互いに交流する。</p> <p>[我が国の再出発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦敗戦後の日本は、アメリカ軍を中心とした連合軍の占領下に置かれ、占領政策は、連合軍最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）の発する指令や勧告に基づき、日本政府が実施する間接統治の形態で実施された理由について説明できる。 ・戦前の日本社会の状況を踏まえて、戦後の我が国の民主化を進めるために実施された五大改革が意図したねらいについて説明できる。 ・日本国憲法の成立過程や、日本国憲法と大日本帝国憲法とを比較して、その相違点や日本国憲法の特徴について説明できる。 ・戦後の混乱期に、政党政治が復活し、社会運動が活発化した理由について、当時の時代背景を踏まえて説明できる。 <p>[冷戦の開始と講和]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとソ連による冷戦が始まった経緯や、冷戦がアジア諸国に与えた影響について、第二次世界大戦後の国際情勢の動きを踏まえて説明できる。 ・GHQ/SCAPの対日占領政策が、「日本を資本主義陣営（西側）の一員として早期の経済復興実現」へ変化したことの意義を、当時の国内外の社会情勢

学習指導要領	都立翔陽高校 学カスタンダード
<p>イ 経済の発展と国民生活の変化</p> <p>戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p>	<p>と関連付けて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮戦争の開始が、日本の政治・経済に与えた大きな変化について、具体的な事例を挙げて説明できる。 日本の独立や日米安全保障体制の構築について、冷戦や朝鮮戦争などの国際情勢や我が国の地理的条件と関連付けて、その意義を説明できる。 琉球諸島、小笠原諸島、奄美諸島がアメリカの施政権下に置かれ、沖縄で祖国復帰運動が行われたことについて説明できる。 <p>[政治や対外関係の推移]</p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国における戦後の政治状況について、55年体制が約40年続いたことの意義と社会への影響を、当時の国際状況などを踏まえて説明できる。 多極化する国際情勢の変化やアジアの緊張が日本の政治・外交政策に大きな影響を及ぼしたことについて、国際情勢と関連付けて、具体的事例を挙げて説明できる。 冷戦終結後の国際環境の変化を理解するとともに、我が国が国際社会において果たすべき役割について、具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[日本経済の発展と国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国の戦後経済の歩みについて、当時の国際情勢の動向を踏まえながら、高度経済成長に至る過程と、石油危機を克服して経済大国になる過程を具体的事例とともに説明できる。 高度経済成長の過程で、我が国の産業構造が大きく変化した結果、どのように国民の生活様式や意識に変化が起こったかについて、具体的に事例を挙げて説明できる。 日本経済が安定成長の時代に入ると、国際協調を重視した経済政策が実施されるようになったことを時代の変化とともに説明できる。 <p>現代の日本社会が直面する身近な社会的事象や、地域の事象、現代の課題などについて、主題を設定し、資料を多角的・多面的に活用して探究し、その解決に向けた考えを、レポートなどにまとめて表現できる。</p>

学習指導要領	都立翔陽高校 学カスタンダード
<p>ウ 現代からの探究</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</p>	